



〒892-0841 鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



教区フェスタとノベナの意向について検討

教区司祭会では祭儀費について共通理解を図る

四月八日(月)午後、教区本部で教区司祭会が開催された。

会議では司教から新しい任地に赴く司祭の紹介があった後、議事に入った。最初に話し合われたのは今年度の「教区フェスタ」についてで、司祭評議会の意向を受けて検討がなされ、今回は司教座献堂記念日とも重なることから、司教ミサを十一時にささげ、その後持参の弁当で信者の交流の時間をもち終了することとした。

その後は教区司祭が教会会計に納めなければならない祭儀費について、その共通理解を図った。葬儀、結婚及び信徒への

教区司祭会と定例司祭集会で

祝福等で得た謝礼については、「教区司祭地区財務管理規定」の原則に基づき、必要経費を除いて全額教区に納めることになっている。

しかし今会議では司祭各人の理解が異なる部分もあり、その共通理解を得るために再度話し合うこととした。

定例司祭集会

四月九日(火)午前十時から教区本部でコンベンツ

今夏鹿児島で学生セミナーを開催

日本カトリック医師会

毎年夏に全国の医療関連の学生と社会人が集う合宿形式の学生セミナーを開催している日本カトリック医師会は、今年度の集いを鹿児島で開催することとし、現在、受講者を募集している。今年度のセミナーのテーマは「共に考えよう！イエス様の声で聞こえる医療とは！」で、八月二十四日(土)と二十五日(日)の両日、教区本部で開かれることになっている。

ミサ式次第についての学びが中心

今年の典礼研修会

教区典礼委員会(寝占敦之委員長)は、今年度の典礼研修会を開催するにあたり、「典礼は教会活動が目指す頂点であり、同時に教会の力が流れ出る泉」(典礼憲章10)とし、ミサの各部分、式次第の意義と相互

の関連が理解できるように次のテーマで開催することとした。

- ①ミサ式次第の理解「ことばの典礼」(五月十九日開催)
- ②ミサ式次第の理解「感謝の典礼」(六月十六日開催)
- ③聖体賛美式その他

2013鹿児島きぼうの電話 カウンセリング講座日程

回	月	日	曜	講師	内容
※	6	15	土	事務局	説明会 14時と19時(2回)
第1回	6	21	金	竹山 昭神父	共に歩むためにI
第2回	6	28	金	大坪治彦先生	カウンセリングの基礎知識I
第3回	7	5	金	大坪治彦先生	カウンセリングの基礎知識II
第4回	7	12	金	有倉己幸先生	職場の人間関係
第5回	7	19	金	有倉己幸先生	人間関係のストレス
第6回	7	29	月	森口 進先生	アルコール依存症-その関わりI 公開講座
第7回	8	5	月	森口 進先生	アルコール依存症-その関わりII 公開講座
※	8	30	金	事務局	親睦会①(詳細は後日)
第8回	9	6	金	今林俊一先生	家族の人間関係
第9回	9	13	金	今林俊一先生	青少年の心理I
第10回	9	20	金	事務局	電話カウンセリングの実際①
第11回	9	27	金	今林俊一先生	青少年の心理II
第12回	10	5	土	郡山健次郎司教	それでも「きぼうの電話」
第13回	10	6	日	事務局	電話カウンセリングの実際②
第14回	10	11	金	大坪治彦先生	よい聴き手となるためにI
第15回	10	18	金	大坪治彦先生	よい聴き手となるためにII
第16回	10	25	金	大坪治彦先生	よい聴き手となるためにIII
第17回	11	1	金	大坪治彦先生	よい聴き手となるためにIV
第18回	11	8	金	事務局	電話カウンセリングの実際③
第19回	11	15	金	竹山 昭神父	共に歩むためにII
第20回	11	22	金	竹山 昭神父	共に歩むためにIII 修了式・認定式
※	11	29	金	事務局	親睦会②(詳細は後日)
※	12	6	金	事務局	新人オリエンテーション

教区人事

- ▼小川靖忠神父(大熊教会主任)は指宿教会主任司祭及び百合合幼稚園園長
- ▼グエン・フン・タム神父(種子島教会)は瀬留教会主任
- ▼栃尾泰英神父(瀬留教会主任)は大熊教会主任
- ※着任は五月中旬に完了

司祭の消息

- ▼美島春雄神父(指宿教会主任)及び百合合幼稚園園長は、体調を崩したため静養

交通の要所福岡に 福岡コレジオ開校

四月五日(金)、長崎教区司教座副院長「福岡コレジオ」が浄水通教会(福岡市)の隣接地に開校した。開校式には長崎教区司教の代表者約五十人が出席し、鹿児島からは郡山健次郎司教以下四人が駆けつけた。

コレジオはいわば中神学校で、小神学校と大神学校の間をとりもつもの。これまでの長崎コレジオが福岡に移転する意義について



(七月七日開催)

研修会会場は、いずれもザビエル教会で、十三時三十分から十五時三十分までで、受付は十二時三十分から。受講料は、受講回数にかかわらず五百円となっている。受講希望者は教会ごとにファックスで教区本部(℡〇九九二二二五〇四四〇)に申し込むことになっている。申込締切は五月十二日(日)。

六月から講座を開講 鹿児島きぼうの電話
苦しむ悩む人の声を聴く活動を続けている鹿児島きぼうの電話(山口寛子委員長)では、相談員養成にも繋がるカウンセリング講座を六月から始める。二十歳以上の人なら誰でも受講できるこの講座は、受講料が全二十回で九千円(学生は半額)、中には受講料無料の公開講座もある。受講希望者は山口委員長(℡〇九〇一六一二一七三七二)か辻事務局長(℡〇九〇一五四八八一九六八〇)まで。

司祭たちの分かち合い



殉教者たちの心を学んだ旅

中高生の長崎巡礼を終えて

中高生担当 泉 浩二

今年の巡礼は復活祭の翌日からの二泊三日の旅だった。参加者は十人（聖心、赤木名、谷山、出水）と少人数だったが、新中学一年生が五人参加してくれた。その中の一人は未洗者でまた今年が二度目の参加、あるいは「昨年参加できなかったから」という子もいた。教会学校経営が難しい状況の中、体験を通して「信仰を生きること」を学ぶことができたように思う。それも年齢に関係なく、神の愛、呼びかけを感じることを実感した巡礼だった。

赤木名教会 大司百花

「愛は死よりも強し」二十六聖人記念館の入り口に書いてあった言葉だ。最初見た時は全然意味が分からなかった。しかし中に入り、展示物を見て回って行くうちに、だんだん意味が分かった気がした。

伝統的に「聖霊降臨は教会の誕生の時である」と言われていますが、なぜこのような言葉が伝えられてきたのでしょうか。今回は少し難しくなりますが、聖霊降臨の出来事とイエス様の言葉を通じて、この格言の意味と教会とは何なのか、ということを考えてみたいと思います。

聖霊降臨の時、弟子たちはマリア様と共に熱心にお祈りをしていました（使徒1・12〜14）。彼らは何を祈っていたのか、聖書には何も記述を見出せません

私にとって、祈ることが出来るのは当たり前だった。ミサに行くことや食前、食後の祈りは信者なら誰でもできることだと思っていた。六年生になり、社会で歴史を学んで、そうではない時代があったことを知った。

た。それでも遠い昔のことでも他人事のようにしか思えなかった。だから記念館に入った時は、正直驚いた。私にとっての当たり前は、その時代の信者にとって、とてもありがたいことだったのだと思う。その時代の信者たちは、様々な工夫をしてキリスト教を続けていたらしい。そんな信者たちの苦勞や努力があったからこそ、今私たちは教会で祈ることが出来るのだ。



長崎巡礼で多くのことを学んだ子どもたち

代の信者たちは、様々な工夫をしてキリスト教を続けていたらしい。そんな信者たちの苦勞や努力があったからこそ、今私たちは教会で祈ることが出来るのだ。「愛は死よりも強し」どんなに辛いことがあってもキリスト教の信者をやめなかつた人たちに、神への

が、ヒントになるのが復活したイエス様の「わたしについてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する」という言葉です（ルカ24・44）。おそらく、弟子たちとマリア様は、イエス様の言葉を通じて、神様の救いのみ業が実現することを祈っていたのではないかと考えられます。また、イ

復活したイエス様、そのイエス様を通じて与えられた聖霊、そして祈っていた弟子たちは、まさに教会の始まりなのです。なぜなら、聖霊によって弟子たちは共

聖霊降臨は教会誕生の時

鈴木神父のやさしいみことば

愛・神からの愛があったのだと思う。二十六聖人の中には、死ぬ前にキリストとマリアの名を呼んだ人もいた。死から逃げることに感謝したい。今の私には、文章にはできないがその言葉の意味が分かる。

今こうして自由に祈ることが出来るのは、当時のすべての信者の夢だったと思う。その夢を叶えるためには、私たちは日々の祈りを大切にしなければならぬのだ。これが今回の巡礼で学んだ事である。

聖心教会 福留詩音

僕は今年の長崎巡礼に参加して、いろんなことを学びました。例えば、一五四九年にザビエルが日本にキリスト教を伝えたこと、一八六五年二月にブチジャン神父により今日行つた大浦天主堂が建てられたこと、同じ年の三月に杉本ユリたち隠れキリシタンが天主堂を訪ねたことなどです。

また一九三〇年四月にコルベ神父が長崎に来て、大浦天主堂で聖母マリアと出会ったこと、その一月後には無原罪の聖母の騎士誌を発行したことです。

僕は、今年の長崎巡礼に参加していろいろなことを知ることができてよかったです。これからはできるだけミサに行くようにしたいです。だからこそ、聖霊降臨が教会共同体の誕生の時であると言われるのです。そして、ここから教会とは何なのか、という答えが導き出されます。教会とは、イエス様をこの世にお遣わしになった神様の救いの計画の中に於いて、人間の力によるものでなく、神様の愛による救いのみ業が聖霊降臨を通じて具体的に「私たち」として現れた共同体なのです。そして、私たちはイエス様の福音を伝える弟子としてこの教会共同体に属しているのです。

ザビエル書院の窓

ドン・ボスコ社
カトリック生活
五月号 二百十円

教皇フランシスコについての記事が満載。教皇の紋章やその生き方、歴史まで、新教皇の魅力がたっぷり紹介されています。

俳句

鹿兒島純心 川上 和
桜舞う夜空にくつきりマリアさま 出水市 沖 弘子
喜びを空へ鳴く鳥復活祭 純心学園 山頭 信子
花いちご今朝生けてありミサささぐ 霧島市 政 ノブ子
一本の水仙開き四旬節 鹿兒島市 徳永ノブ子
豆の花祈り集めて結びぬ 徳永ノブ子
十字架に飾りし枝や春の色 祭壇に活かす花籠復活祭 奄美市 林 常広
また咲くよ雑草はえし春の露

短歌

復活祭もういいかいの声遠く 霧島市 政 ノブ子
藤の花揺れて迎える朝のミサ

出水教会 新富莉子

今回の長崎巡礼で一番心に残ったことは、二十六聖人記念館とコルベ記念館に行つたことです。

まず二十六聖人記念館で一番驚いたことは、二十六聖人以外にもたくさんのお数え切れないほどの信者さんや神父様が、神様を信じて亡くなっていたことです。他にも三尺牢を見ましたし、町の中を「神様を信じて、こうなりますよ」と見せしめにされたりしたと学びました。私だつたらとても耐えられなかつたと思います。

次にコルベ記念館に行きました。私はコルベ神父様

という名前は聞いたことありませんでしたが、どのようなことをしたのかはあまり知りませんでした。今、コルベ神父様のことを知り、「勇気のある人だな」と思いました。きっと私には自分のいのちを捨ててまで友人を救う勇気はないと思います。コルベ記念館で心に残った言葉があります。それは「友のためにいのちをささげる以上に大きな愛はない」という言葉です。この言葉を聞いて、コルベ神父様は本当に勇気があるだけだなく、強く優しい人だつたんだと思えました。私はこれからコルベ神父様のようになりたいので、強く優しい人になれるように頑張っていきます。

復活祭に親睦の遠足を実施

主任司祭の叙階二十年も記念した鴨池教会

鴨池教会では三月三十一日(日)の復活祭のミサ後、温泉のある保養地「マリニピア喜入」への遠足を行った。この遠足は、日ごろなかなか一緒に集うことのない信徒の交流を図るためであったが、一九九三年三月二十五日に司祭に叙階された主任司祭・泉浩二神父の二十回



目の叙階記念を祝うためでもあった。泉神父は七年前、鴨池教会から加世田教会へと転任されたが、昨年また鴨池教会へと帰って来られた。しかし、鴨池教会主任司祭と隣接の聖母稚園の園長として働くだけでなく、加世田聖母幼稚園の園長を兼務するという多忙な勤務だった。その上、昨年は加世田聖母幼稚園の五十周年記念行事を挙げるなど、忙しい毎日を通りながらこの司祭叙階二十年を迎えられた。年ごとに成長されている泉神父だが、今後益々司祭としての働きが充実し、できることならここ鴨池教会で司祭叙階銀祝を迎えて下さるよう信徒一同で祈っている。

復活の喜びを分かち合う 小宿小教区 (G・ティエン神父主任司祭) では三月三十一日(日)、小教区の六つの教会の信徒が小宿教会に集い、復活の主日・日中のミサをささげました。ミサの後、信徒館で壮年が釣ってきた魚のアバス汁が振舞われ、手作りのお菓子を味わいながら、分かち合いのひと時を過ごしました。この催しは、「信仰年」にあたり小教区の信徒皆が、時折々の典礼の祈りを深めながら、テーマに沿っ



霧島彬さんローマへ留学 始良教会の霧島彬さんが教区神学生として、八月一日付けでローマの聖十字架大学へ進学することが決まりました。

「短信」

霧島彬さん二十五歳。霧島神学生は日本を離れるまでの間、サンタマリア神父(国分教会)のもとで語学と司牧を研修する。カトリック大隅学園 国分、鹿屋、垂水、志布志の幼稚園からなるカトリック大隅学園では、四月一日(月)教区本部で合同の辞令交付式を行い、今年度採用した九人の職員に辞令を交付した。

のびやかに憩う喜び

司教執務室だより

小ぶりのバラの寄せ植えをいただいたのは、昨年のいつだったか。枯らしては大変と水やりには気を使っていたが、次第に葉が黄色くなった。元気がなくなってきた。あるとき、本部棟横の空き地に移植して様子を見ることにした。するとどうなるか。日増しに顔色ならぬ、葉の色も青味を増し、ついに、この冬を乗りきり、大きなみずみずしい葉をつけた新しい茎を出すまでになった。それは、まるで、狭いかごから放たれた小鳥が青空に向かって飛び立つかのように、体いっぱい解放され

た喜びを表しているかのよう。見ていて気持ちがいい。青息吐息のクリスマスローズやシクラメンも同じように鉢から解放してあげた。するとどうだろう。あの、物言わぬ植物たちの喜びよう。水やりが不要になったほど、いずれも青々と生気を取り戻した。まさに水を得た魚のようとはこのことだ。そんな姿を見てみると、小さな鉢に閉じ込めて小さな花を咲かせて喜んでいることが、いかに不自然で、いかに罪なことかと思わざるを得ない。さぞ、窮屈だったろうに。ふとアウグスチヌスの言葉が蘇った。「神の懐に憩うまでは安らぎを



植物が、広々とした自然の中で自由闊達に根を張ることで豊かに実を結ぶように、神に似せて造られた私たちもそのようでありたい。とくに、洗礼の恵みによって神の子供となった私たち信者は、青空にも勝つて、どこまでも広い神様の懐の中でのびやかに憩う喜びを満喫したいものだ。五月は聖母月。どんな難局に直面しても、「なれかし」を口にされながら、神様の計り知れないはからいの一つひとつを雄々しく受け止められた聖母のおおらかな信仰に倣う季節にしたい。そして、鉢から解放されたバラのように、スクスクと伸びて、アウグスチヌスの告白が、私たちがみんなの実感となるように祈りたい。



て互いの信仰体験を分かち合おうと年四回の計画で開かれていきます。二回目となった今回のテーマは「キリストの復活の喜びのうちに分かち合う」でした。ティエン神父の呼びかけで、私たちはこのテ

+KABAYAN SEKSIYON+

Pananampalataya: Isang Mapagpalang Handog ng Diyos

Sa madaling sabi, ang pananampalataya ay isang malayang kaloob mula sa Diyos, isang biyaya, isang kabutihang kaloob ng isang mapagmahal na Diyos na hindi naghihintay ng anumang kapalit. Batid ni San Pablo na hindi siya karapat-dapat tumanggap ng pananampalataya at tawaging isang apostol, "ngunit dahil sa kagandahang-loob niya, ako'y naging apostol, at hindi naman nawalan ng kabuluhan ang kaloob niyang ito sa akin" (1 Cor 15:9-10). Aminado tayo na walang sinuman ang karapat-dapat o kayang magtamo ng pananampalataya sa ganang sarili lamang; ngunit tumutugon tayo sa pangunguna ng pag-ibig ng Diyos sa isang malaya at personal na pagpli. Ang pagtugon natin ay maisasalarawan sa tatlong mga salita, lahat ay nagsisimula sa letrang "p". Ang pananampalataya ay tungkol sa malalalim na pagkilala sa di-matingkalang kaloob ng Diyos na nagsugo sa kanyang Anak para sa kaligtasan natin. Taglay ang pusong nagpapasalamat, nakatuon ang isang Kristiyano sa pagtanggap sa biyaya ng pananampalataya at pagsasabuhay nito. Ang pagkilala at pagtanggap sa handog-lalo na ang katauhan ni Kristo ay humahantong sa mga konkretong pagkilos para ibahagi ang pananampalataya at pag-ibig na ito sa kapwa, pinapalitan ang pag-ibig ng Diyos kay Hesus sa pamamagitan ng pagkakawanggawa at paglilingkod bilang misyonero. Pananampalataya, isang dakilang handog, ang ating pag-aari! Hindi naman kailangan bilhin ang handog ng pananampalataya, bagkus ating tinatanggap ng libre sa Diyos, sa pamamagitan ng mga sakramento. Kaya lahat ng Kristiyano na bukas ang puso at buhay sa pagbibigay ng biyaya at pagpapala ng Diyos ay nakakaranas ng kaganapan ng buhay dito sa mundo. Alam nila na ang higit na napakahalaga ay ang pananampalataya na isang mapagpalang handog ng Diyos. Nagiging masayahin ang mga taong nakakaunawa ng kanilang pananampalataya sa Diyos. Nagiging buhay sa kanila ang presensiya ng Diyos at nagiging mga saksi sa gawa ng Diyos sa kanilang buhay. Ganap ang kanilang relasyon sa Diyos na higit nilang nararanasan na walang pagkukulang sa kanilang buhay dahil sila ay pinupunuan ng Diyos ng kanilang mga kailangan sa araw-araw. Napakaganda ng mga handog na ito ng Diyos sa atin, na huwag nating sayangin at balewalain dahil kung mawala ang mga handog na ito sa atin, tayo rin mga tao ang magtititis at walang direksiyon ang ating patutunguhan. Ang handog na ito ay mas nagiging mabunga kung ang mga taong nakatanggap nito ay kanilang isinasabuhay sa gawa at salita. At dahil diyan ang mga taong wala pang tunay na pananampalataya ay maliliwanagan din. *Katekismo-Pilipinong Katoliko (Fr. Dino Orloff)*

マを心に留めながら聖なる超越した三日間を共に過ごしました。分かち合いでは、まず復活徹夜祭の夜に病床で洗礼を受けられた方の感動的な報告を受け、皆で感謝の祈りを唱えました。その後、次々にマイクが手渡され、「祈り」「人生の歩みと信仰の喜び」「四旬節の黙想会からの実りの体験」「姉妹と体験した苦しみと復活の喜び」「復活祭に頂いた気づきと決意の恵み」など、私たちは互いの分かち合いを通して、豊かにされ、復活の喜びがさらに大きくされるのを感じました。次回の集いは「聖臨降臨」に予定されています。(小宿レポート)

会と催し (5月)

- 3日(金) 聖フィリポ 聖ヤコブ使徒 福崎英雄神父霊名(聖ヤコブ)
 - 4日(土) 石田望神父霊名(聖フィリポ)
 - 5日(日) 復活節第六主日 盛克志神父叙階記念日(一九九一年)
 - 5日(日) 世界広報の日(献金)
 - 6日(月) 糸永名誉司教と学ぶ読書会・教区本部・10時
 - 6日(月) 主の昇天
 - 12日(日) 経済問題評議会・教区本部・14時
 - 14日(火) 聖マチア使徒
 - 17日(金) デイノ神父叙階記念日(一九九八年)
 - 18日(土) 宣教学校・教区本部・13時30分
 - 19日(日) 聖霊降臨
 - 20日(月) 聖霊降臨 宣学研修会・ザビエル教会・13時30分
 - 20日(月) レデンプトル会例会
 - 20日(月) デイノ神父霊名(聖ベルナルディーノ)
 - 26日(日) 坂本進神父のホルステック聖書講座「ヨハネ福音書三章 永遠の生命」・ザビエル教会 集会室・10時~12時・五百円
 - 26日(日) オリブの会・教区本部・14時
 - 31日(金) 聖母の訪問
 - 31日(金) タム神父叙階記念日(二〇〇七年)
- 祈りの意向
- 【ノベナ】 聖霊降臨の前に、新たに「堅信」を受け取る人たちのため(10/18日)
 - 【祈祷の使徒会】 一般・正義をつかさどる人 宣 教・神学校 日本教会・子どもたちの尊厳

一 神の国を教会共同体の中につくること―右近の教会共同体づくり

高山右近の最終章に当たる本稿において「右近の領国統治方法」及び「右近の最期」について、記させて頂きたいと思えます。

右近の国作り・領国の統治方法は、ミゼリコルジャ(イエスの慈愛)の実現、というところにありました。当時のクリシタンが暗唱していたカテキズモ(教理問答書)「どちりな・きりしたん」には、七つの「慈悲の所作」が強調されています。それはミゼリコルジャと言われます。ラテン語、英語でいうmisericordiaeが、これに該当しています。従ってクリシタンであるとは、このmisericordiaeの実践を行う者という意味でもあるのです。クリシタン大名・高山右近は、領主・領民の別を越えてこのmisericordiaeの実践を行い、クリシタンとしての証を生きてみせました。

物質的ミゼリコルジャとは、①飢えたる者に食を与えること ②渴く者に飲ませること ③裸の者に衣服を与えること ④病人をいたわり見舞うこと ⑤行脚の者に宿を貸すこと ⑥とらわれ人の身を請け出すこと ⑦死骸を丁寧に葬ることを意味しています。



高山右近(大阪カテドラル)

ユスト高山右近、父タリ才飛騨守は高槻、明石の各領内において、このミゼリコルジャに基づく見事な福祉政策を行ったのです。右近は、異教徒に対しては、葬式の際、先頭に十字

クリシタンの歴史⑬

高山右近(補筆・下)

溝辺教会主任司祭

坂本 進

に飲ませること ③裸の者に衣服を与えること ④病人をいたわり見舞うこと ⑤行脚の者に宿を貸すこと ⑥とらわれ人の身を請け出すこと ⑦死骸を丁寧に葬ることを意味しています。

スピリッツ(精神)におけるミゼリコルジャ、それは、①人に良き助言を与えること ②無知なる者に道を教えること ③悲しむ者に慰めを与えること ④折檻すべき者を折檻すること ⑤恥辱を耐えること ⑥ポロシモ(隣人)の足りない所を許すこと ⑦生死の人と、我に仇をなす者のためにデウスを頼みたてまつること、でした。

架をもつて進ませ、棺を人々から軽蔑されている下賤な非人にかつがせず、右近と父タリ才父子が自らその肩に載せ、葬式行列を行わさせていたのです。かかるミゼリコルジャに基づく政策が高槻領内に浸透していたればこそ、明智光秀による織田信長暗殺(一五八二年)が知れ渡っていた際にも、誰一人領内において暴行・略奪を行う者はなく、平時のとき秩序を保たされることが可能であったのでしよう(海老沢有道「高山右近」一〇一頁)。平時からの右近の善政と模範の生き方が秩序を保ち得させたといえるのです。

つたのかもしれない。それが誤って寺院破壊となつて伝えられたということが真相のようです。ユスト(正義)という洗礼名を持った右近は、その霊名にふさわしく正しく生きようとしていたに違いありません。領主としての権力を用いて、右近が異教徒である仏教徒を迫害するということを果たしてしたでしょうか。

二 右近の最後と教皇ヨハネ二十三世の最後
第二バチカン公会議を開き、カトリック教会の刷新に尽力された教皇ヨハネ二十三世は、病気で亡くなる直前に秘書を呼び、公事を託した後「しばらく祈るから」と言つて、秘書を部屋から下がらせました。教皇さまは、病棟のベットで、ロザリオの祈りを聖母マリアに捧げ、祈りを続けられたのです。その祈りの途中、息を引き取られました。右近の最期も同じようであつたことを、クリシタン研究者・チースリク神父さまは述べておられます。

彼は、敬虔に、聖なる諸秘蹟と終油を受け、幾たびも「我が主を仰ぎに行く」と繰り返しながら、自分の魂を創造主に返しました。それは、まったく、大いなる安らぎと神のみ旨に委ねていた有様でありました(チースリク「高山右近史話」三六八頁)。
モレホン「日本殉教録」及び「高山右近の妻」(『クリシタン大名の妻』所収)にも、終油の秘蹟を受け、「わがアニマ(靈魂)をゼウス(天主)の御前に導き給え」「ゼウス、マリア」と唱えながら、息を引き取つたことが記されています。

三 ブレない生き方―信仰を貫く右近の生き方
時代がどういう時代であろうと、置かれていた環境・状況がどういふ環境・状況であろうとも、信念・信条を貫くブレない生き方はできるのです。高山右近の生涯が、その模範(モデル)を示しているではありませんか。他人のせいにすることなく、自分がどういふ生き方をするか、ということなのです。
右近は、おのれの信じる信仰のために、なにもものをも恐れませんでした。ひたすらクリスト教的人間になりきることを目指し、幾多の試練を乗り越え、自分の信念を貫き通したのです。試練、苦しみが多いというのは、逆にいえば、自分の信念を貫き通そうとしているからと言えます。高山右近の信仰の生涯の模範に倣い、私たちもクリスト教的人間の完成を目指し、クリスト教的生き方を貫いていこうではありませんか。(未完)

民という身分の別をなくさせ、平等に兄弟姉妹として領民に接していました。右近はクリシタン信仰に熱心なあまり、領内の寺院・神社を破壊し、僧侶たちを追放したということが巷間伝えられています。かかる事実は右近が若年領主であつたことからくる未熟さ、或いは信仰熱心のゆえにあつたかもしれません。しかし、真偽のほどは、定かではありません。「イエズス会年報誌」及び「宣教師ルイス・フロイス書簡」には、その記述は全く記されてはいません。右近の影響によりクリシタンに改宗する者が増えていき、仏教徒がいなくなつた廃寺が多くなつたことから、廃寺を壊し教会に改築してい

答に関するエピソードです。右近はこう答えたそうです。「加賀・北陸一帯は、一向宗の地盤です。その宗教心によって、人心と社会の安定がはかられてきたように思われます。そのような地盤を持つ加賀・北陸の領主である前田利長公が、クリシタンになるなら、国が割れて分裂の恐れが出てきます。領主が洗礼を受けてクリシタンになるよりも、一向宗、クリシタン両宗教の保護者でおられるほうが、領国に政治的安定をもたらし得るのではないのでしょうか。人心がクリシタンに好意を持つようになると、洗礼を受けるのがよろしいのではないかと存じます」

「神父さま、私は死ぬことを知っています。しかし、家族を悲しませないように、それを示すことをいたしません。今、私は、自分の死が、神様のみ旨であると知っていますので、大変慰めを感じています。私は、クリストのために日本から追放され、クリスト信者の国において修道者にかまわれてこうして死ぬことができることを、心から感謝しているのです。私は、妻、娘、孫たちのことについては、少しも心配していません。彼らも私も、クリストのために追放されてここに来ました。これからも、主が彼らにとつて父親になつてくれることを、確信しているからです」
そして、右近は、聖トビアと同じように遺言をしたのです。すなわち、家族たちに、信仰に堅固であり、神父たちに対して従順であるよう、勧告したのです。

聖母行列のご案内

風薫るさわやかな5月、聖母月最後の土曜日に鹿児島純心女子学園ではマリアさまを称えて聖母行列を行います。今年、創立80周年を迎える学園で、生徒、学生、教職員が世界の人々と心を合わせて平和を祈ります。
日時：5月25日(土) 午前10時～11時30分
場所：鹿児島純心女子学園(唐湊キャンパス)
問合せ：鹿児島純心女子学園 TEL099(254)4121

マリア山荘講座「西郷隆盛とキリスト教」

―記念ミサとパネル・ディスカッション―
日時：6月16日(日)9時30分～15時30分まで
参加費：1,000円(資料代&弁当代含む)
講師：高柳毅(西郷南洲顕彰館館長)「敬天愛人とキリスト教」
安川あかね(西郷隆盛研究家)「女性の解放と西郷隆盛」
お問い合わせは、マリア山荘まで TEL0995(58)2994